



三陸・海の博覧会

200万人目ご入場



最終日200万人を超える入場者数を記録し、大成功を収めた三陸・海の博覧会(9月15日)

●特集■県政この1年 いわて1992

平成4年(1992年) 県勢ビッグテン

順位	項目
1	三陸・海の博覧会大成功
2	新盛岡市誕生
3	本県初のオリンピック金メダリスト三ヶ田礼一選手に、県民栄誉賞
4	子どもたちの豊かな心を育む学校週5日制のスタート、県立高田松原野外活動センターの開所など、生涯学習環境の整備進展
5	一般国道283号仙人峠道路事業着手
6	岩手の河川「きれいな水」日本一に、また、景観行政、県版ナショナルトラストのスタートなど、緑あふれる快適な県土づくり促進
7	新県立宮古病院開院、福祉の里センターオープンなど、福祉と医療の施設整備進展
8	北上中部地域が地方拠点都市地域へ
9	岩手の乾しいたけ(愛称岩手健康しいたけモッコリくん)品質日本一、前沢牛が3年連続日本一に輝くなど、岩手の農林産物が全国的な評価
10	'92FISワールドカップ盛岡・雫石大会開催、'93世界アルペン開催機運高まる



盛岡市と都南村に対し合併決定書が交付(2月21日)

岩手にとってもさまざまな出来事があった1992年も足早に暮れようとしています。

春、あちらこちらから花の便りが届く頃、盛岡市と都南村が合併しました。名実ともに北東北の拠点都市・新生盛岡市の発足です。

そして、まさに熱く燃えた夏。国のジャパンエキスポの認定を得て、全国の注目するなか開幕した「三陸・海の博覧会」は、大勢の入場者を集め、三陸の名が全国に広まりました。

来年2月には、「世界アルペン」が私たちのふるさと岩手で開催されます。来る1993年に思いを馳せながら、実り多かつたこの年を振り返ってみましょう。



'92 F I Sワールドカップ盛岡・雫石大会

- 1・1 例年の冷え込みもなく穏やかに明けた1992年
- 1・16 盛岡市に住む高橋克彦さんが、直木賞を受賞。本県での受賞者は5人目
- 1・17 2千人が参加して「明日の教育を語る県民のつどい」が盛岡市で開催



- 1・17 NHK大河ドラマ「奥州藤原四代」のロケ地が、江刺市に決定。原作者は直木賞を受賞した高橋克彦さん
- 2・1 働生物工学研究センターの設立。生物工学研究所（仮称）は平成5年4月に開所予定
- 2・2 世界アルペンを雪祭りでPR。アルペンフェスティバル開催



- 2・6 第19回岩手の県民運動推進大会「雪をいかし雪に親しむ県民のつどい」が雫石町で開催。約850人が参加



- 2・8 県商業振興計画策定
- 2・9 山田町と雫石町・小岩井農場で三陸博150日前イベント
- 2・13 新しい農業を求め「新しいわて農業確立青年の集い」開催。県内外の農業青年ら約300人が参加



- 2・17 県生涯学習振興方針決定
- 2・17 県観光振興計画、県労働福祉計画策定

- 2・18 県内のスキー場を売り込もうと首都圏に住む女性28人をスキーツアーに招待。評価は上々
- 2・18 フランスのアルペールビルで開催されていた冬季五輪で、安代町出身の三ヶ田礼一選手らが複合団体距離競技で見事金メダル獲得。24日には工藤知事から県民栄誉賞が贈られた



- 2・21 県の魚に「南部さけ」を決定
- 2・29 「脱スパイクタイヤ」で粉じのない初めてのきれいな冬
- 3・1 '92ワールドカップは、この日スーパーGが行われた。待ちに待った世界の滑りに観衆が沸いた。優勝はアッコラ（スイス）
- 3・2 山形県で開催されていた第47回国体冬季スキー競技会では、県勢が大健闘。天皇杯は5位、皇后杯では6位

- 3・13 盛岡・秋田間新幹線直通運転に向け、秋田市で着工式
- 3・16 県立高度技術専門学院で初めての卒業式。68人が社会へ



- 3・23 平成4年度予算などを可決して2月定例県議会が閉会
- 3・24 宮古短期大学、初の卒業式。95人の卒業生がキャンパスを巣立つ



- 3・24 「いわて女性さわやかプラン」策定。婦人から女性へ、男女共同参画型社会を目指す
- 3・27 県内の地価公示、上昇率が昨年を下回る
- 3・27 皇太子殿下がスキー旅行のためご来県



盛岡市と都南村と合併により、新盛岡市誕生

- 3・30 県南部栽培漁業センターがカレイ科の高級魚マツカワの人工授精とふ化に成功
- 4・1 盛岡市と都南村の合併により新生盛岡市が発足。北東北の拠点都市として新たなスタート
- 4・1 県の財務会計をオンライン化。事務の効率化に期待が高まる新システム
- 4・1 八幡平、小岩井、浄土ヶ浜の3県営有料道路が無料化に
- 4・1 盛岡岩泉間など3路線一般国道に追加指定
- 4・2 農業担い手育成基金、事務所が開所。10億円の基金を運用し、就農促進対策などへ



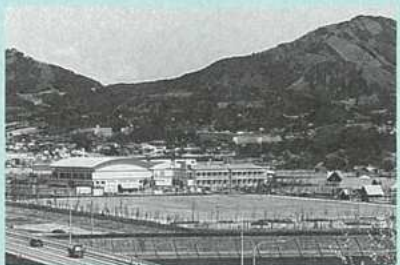
- 4・5 世界アルペンまで300日を機に、コンパニオン選考会など300日前イベント盛岡市で開催

- 4・11 梁川ダム建設事務所が開設し、事業に着手
- 4・13 平成3年の県内の観光客入り込み数は、対前年比6.3%増の約3,893万人。過去最高を記録した
- 4・18 多目的催事施設の産業文化センターに、国際会議も可能なコンベンション施設が完成。「アビオ」と命名



- 4・20 工業技術振興の拠点施設として盛岡市に整備が進められている工業技術センターの建設工事安全祈願祭がこの日行われ、本格的な工事が始まった

- 4・20 北東北3県観光立県推進協議会の設立総会が青森県で開催
- 4・23 陸前高田市に各種スポーツ、合宿などできる海洋性の野外活動センター「県立高田松原野外活動センター」オープン



- 4・27 コンピューターを使って最新気象情報を提供する新システム、「リアルタイムメッシュ気象情報システム」発信
- 5・1 暴力団の追放を目指し、(財)岩手県暴力団追放会議設立。この日開所式



- 5・15 全国盲人福祉大会が盛岡市で開催



やまざき ふみこ
山崎 文子さん (3月号)

来年の世界アルペンでは、海外や国外からやってくる人たちと私たちが、心から触れ合うことができれば。誰でもが参加できるうんと楽しいお祭りを、みんなの力を集めて実現したいですね。

- 5・19 来春卒業予定の大学、短大生ら877人が参加して、就職ガイダンスが盛岡市で開催
- 5・20 自治体立優良病院に久慈、北上、胆沢、磐井の県立4病院が表彰される
- 5・25 平成4年度県勢功労者の表彰式が盛岡市で行われた
- 5・28 福祉の里の中心施設「福祉の里センター」を含む福祉の里の合同落成式開催



- 6・1 林業振興の中核施設として林業技術センター(仮称)、矢巾町で本格着工



記念のくい打ち式などが行われた仙人峠道路事業着手記念行事



かし しんすけ
岸 伸介さん (4月号)

東北に生まれ育ち、この風土に育まれてきたものが私たちの中に一杯に詰まっているのです。私たちの文化は中央の亜流ではありません。そのことに確信を持ち自身につなげることが大切です。



- 6・1 宮古、下閉伊地区の中核的総合病院として県立宮古病院が、海を見下ろす高台で開院
- 6・2 三陸博の開催準備もいよいよ大詰め。この日、会場本部の開設式が行われた
- 6・4 久慈市で今年度最初の高齢者大学校開設
- 6・5 国道283号新仙人トンネルが国の直轄事業として建設されることが決まり、仙人峠道路事業着手記念行事が開催された

- 6・6 国道46号などを一斉に植栽。総延長11kmのアルペンフラワーロード誕生
- 6・6 第30回県身体障害者体育大会では岩手・紫波が連覇
- 6・18 国道106号と45号を直結するバイパス道路として一般県道宮古港線小山田トンネルが完成



- 6・22 雫石地域地熱熱水供給事業実証調査デモンストレーション施設が着工
- 7・4 釜石市、宮古市、山田町を会場に「ジャパンエキスポポイントワテ'92三陸・海の博覧会」が開幕。「光る海、輝く未来」をテーマに74日間の夢の世界を展開
- 7・4 遠野市では「'92世界民話博 IN 遠野」が開幕



なかむら てつお
中村 哲雄さん (5月号)

私たちは、酪農を通じて、総合的な農業の向上と地域の活性化のために役立てることがもっとあると考えています。社会に貢献できる21世紀の牧場づくりを夢見ているんです。



もりた けいこ
森田 圭子さん (8月号)

これからは、共生、自立の二つの言葉を大切にしたいと考えています。人と共に自然と共に生きるこそ。そして、経済的な意味ではなく心の自立について考えること。



三陸・海の博覧会開会式

- 7・8 世界14カ国の駐日大使が地方行政視察の一環として三陸博を視察
- 7・10 三陸地域総合研究センターが主催した公開シンポジウム「よみがえるか三陸」が、県立宮古短大で開催。三陸の未来を探る



- 7・20 周遊観光の利便に貢献が期待される広域観光8ルート設定

- 7・30 来年度政府予算獲得に向け統一要望が行われ、県と県議会の代表が各関係省庁・機関に対して116項目を陳情

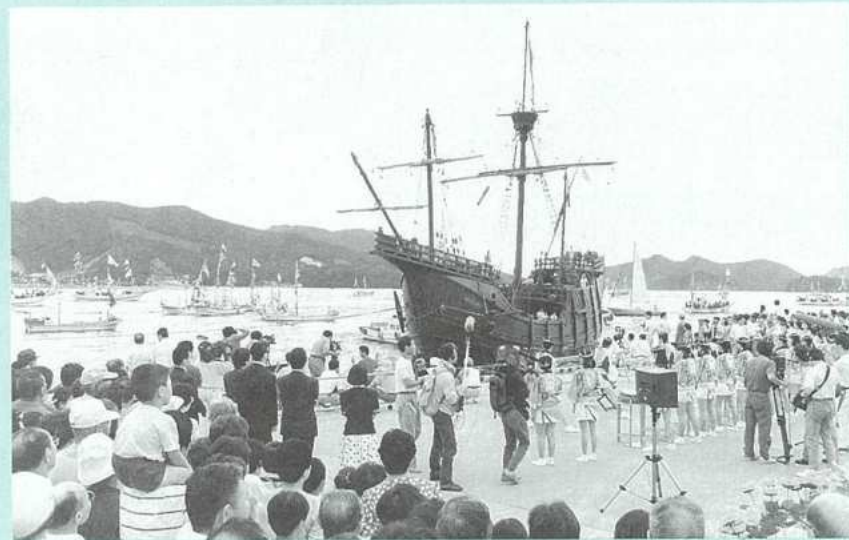


- 7・31 東京築地市場で「知事と一緒に市場を視察する会」開催。岩手ものは高品質との高い評価

- 8・1 西根町に建設が進められていた国際交流村のセンターハウスがオープン
- 8・1 滝沢村の文業文化センター「アピオ」で、「ニュースポーツジャンボリー」開催



- 8・1 県の機関、完全週休2日制へ
- 8・3 沖縄県で行われた全国高等学校文化祭で盛岡第二高校、水沢農業高校が優秀校に



大船渡港へ入港したサンタマリア号

- 8・4 三陸博の入場者が、開幕後1カ月で目標の70万人を達成
- 8・10 岩手の河川、「きれいな水」日本一に。3年度水生生物調査で
- 8・11 コロンブスの旗艦サンタマリア号の復元船が大船渡港へ入港
- 8・12 夏休みに入って伸びる三陸博の入場者数。100万人を突破
- 8・14 釜石港に寄港した海洋研究船「蒼玄丸」の船上で「海洋バイオセミナー IN 釜石」が開催
- 9・1 三陸博会場に5万本の花。「三陸沿岸花のフェスティバル」が開催
- 9・2 三陸博のジャパンエキスポ大賞に「気仙丸」、「ポセイドンシスター」に大賞優秀賞が決定

- 9・5 全国各地から2,500人が参加して「'92全国しいたけ振興大会」開催。「第40回全国乾椎茸品評会」では本県が都道府県対抗の部で初優勝。この日表彰式



- 9・6 国内最大の豪華客船「飛鳥」が宮古港へ入港
- 9・7 昨年、国土庁の全国農村アミニティコンクールで最優秀賞を受賞した胆沢町で「農村アミニティ・シンポジウム」開催
- 9・7 本県にゆかりの93人を県外モニターに依頼。県政に対する意見、提言を聴き、本県の情報を県外に提供
- 9・11 花巻市で「第4回岩手県長寿社会健康と福祉のまつり」と「健康・福祉フェア」開催



- 9・12 子供たちの豊かな心を育む学校週5日制がスタート
- 9・14 県立胆沢病院の移転先が、県蚕業試験場跡地に決定
- 9・15 三陸博、感動のフィナーレ。74日間の幕を閉じる。最終入場者は2,005,281人と目標のほぼ3倍。県民の力の結集が実を結ぶ
- 9・21 アルペンPRキャンペーン隊が、県内全市町村に向け出発
- 9・24 盛岡市にある県営球場の改修工事が始まる。電光掲示のスコアボードへ
- 9・25 一関市、平泉町を水害から守る第一遊水地周囲堤が完成。この日、「千人固めの式」が行われた
- 10・1 福祉関係職場にヘルパーなど人材を紹介する福祉人材情報センターが県社会福祉協議会に設置
- 10・1 世界アルペンの大会運営本部発足
- 10・1 北上川上流流域下水道胆江処理区の供用開始
- 10・3 「'92いわて木材フェスティバル」を盛岡市で開催。各地の特産物の展示・即売会などが行われ大勢の人々にぎわった



- 10・3 第46回岩手芸術祭、プレ国民文化祭開幕。多彩なイベントが繰り広げられた
- 10・7 助釜石、大槌地域産業育成センター開所
- 10・15 大成功を収めた三陸博の開催地宮古市で「三陸の未来・海を生かして」をテーマに「地域活性化フォーラム」が開催
- 10・16 今回で20回を迎えた「いわて農業祭」が盛岡市で開催
- 10・20 岩手の県民運動推進大会、大槌町で開催。テーマは「海と川と森のハーモニー」
- 10・22 国土庁の「過疎地域活性化優良事例表彰」の全国過疎地域活性化連盟会長賞を山形村が受賞
- 10・22 県立大船渡病院の移転新築工事起工式
- 10・25 全国で初めて、町が管理する本屋さん三陸町にお目見え
- 10・25 県内3ルートを走り継いだ希望の継走ランナーが雫石に到着。世界アルペン100日前イベント雫石町で開催
- 10・31 東京都でUターン・Iターンフェア開催
- 11・1 米国アリゾナ州に設けられていた今年で3年目のアンテナショップが閉店。県産品の人気は高く完売した
- 11・4 緑あふれる県土保全事業（県版ナショナルトラスト）発足
- 11・5 ノーマライゼーションを基本理念とした県障害者福祉行動計画が全国に先駆けて策定

- 11・6 全国枝肉共助会で前沢牛が3年連続日本一に
- 11・8 大船渡市の県立福祉の里センターで「岩手県障害者ふれあいフェスティバル」開催
- 11・8 国民文化祭旗を県民に披露する「ふらっぐ・フェスティバル」で、大勢の観客が来年開催される国民文化祭に先駆けて文化の祭典を堪能



- 11・10 盛岡市で「第11回東北科学技術振興会議岩手会議」開催
- 11・10 火災予防を誓う火災予防フェスティバル、一関市で開催
- 11・17 現代の名工8人。知事公館で表彰
- 11・29 景観形成懇談会が設置されるなど景観行政に着手。美しい県土形成に関心が高まる。この日、景観ベスト100発表
- 12・11 県と県議会による政府予算獲得に向けた要望活動が行われた。最重点要望項目21項目、計119項目
- 12・15 県水産試験場が釜石市内で本格着工



橋本 久男さん (9月号)

タウン誌で地域文化の掘り起こしのお手伝いできればいいと思っています。奇をてらうことなく、泥くさくてもいいから読む人が安心して読めるタウン誌を作っていきたい。



佐々木ミキさん (10月号)

高齢者大学で皆さんにお会いして、世界が広がったような気がします。まだまだ、やらなければならないことがたくさんあるので、ひきこもってはいけません。



黒沼 忠雄さん (9月号)

すばらしい生活文化が、日進月歩の文明の発展の中で少しずつ消えようとしています。先人たちが培ってきた生活文化を大切にこそ、人間本来の温かさや純真さを残せるのではないのでしょうか。



滝浦 暎江さん (10月号)

心と心を通わせながらお世話できる、そんなヘルパーが求められています。人間らしく生きていけるように、専門家や周りの人たちと話し合いながら支援していくのが私たちの務めですから。